

10月のはりま読書の会で紹介された本

書名	著者	請求記号（所蔵あり）
終わった人	内館 牧子／著	F ウチ
今度生まれたら	内館 牧子／著	F ウチ
すぐ死ぬんだから	内館 牧子／著	F ウチ
老害の人	内館 牧子／著	F ウチ
山崎豊子全集 4 女系家族	山崎 豊子／著	F ヤマ 4
「話が面白い人」は何をどう読んでいるのか	三宅 香帆／著	
ろう者と聴者の懸け橋に	鈴木 隆子／著	
山崎豊子全集 運命の人 1～3	山崎 豊子／著	F ヤマ 2-1(~3)
詩はあなたの隣にいる	井坂 洋子／著	902 イ
ぼくは挑戦人	ちゃんへん.／著	
日本語はひとりでは生きていけない	大岡 玲／著	
日本語の発音はどう変わってきたか	釘貫 亨／著	

～ 読書会 memo ～

今回は、他の図書館から来ていただいた方を含め7名の参加があり、盛りだくさんの内容となりました。

内館牧子の『終わった人』『今度生まれたら』『すぐ死ぬんだから』は「高齢者三部作」とも呼ばれており、高齢化社会に生きる私たちの心に迫る作品ばかり。その後出た『老害の人』も含め、「一冊読むとどんどん読んでしまう」とお話されていました。

続いて紹介されたのは、山崎豊子の『女系家族』。代々女系の老舗木綿問屋で、社長が残した遺言から起こる遺産相続争いを描いた群像劇です。

紹介者の方は前回・前々回と山崎豊子作品を読み進めており、前回紹介された『運命の人』を今回別の人が紹介されるという「運命」的な出会いもありました。

『ろう者と聴者の懸け橋に』の著者は「手話通訳士」兼「日本語教師」。ろう者の文化に根差した「日本手話」と、後から手話を学んだ人による「日本語対应手話」は別物で、この違いによって多くの問題も起こっているのだと言います。「日本手話」を母語とするろう者には日本語を、日本語話者には手話を教えて、双方の懸け橋にしたいという著者の思いを伝える本です。

『ぼくは挑戦人』では「在日」として生きてきた著者が、過去に遭ったいじめや、国籍をどうするかという重いアイデンティティの悩みについて、伝わりやすい言葉で書いています。著者はジャグリングのパフォーマンスをしながらの講演もされるのだそうで、紹介された方はその技量だけでなく表現力にも感心されていました。

ほかにも三宅香帆さんの話題の本や詩の本、日本語の歴史についての本など、多くの本が紹介されました。みなさま、ありがとうございました！

次回は **11月16日(日)午前11時から**の予定です。
※変更となる場合があります。HP等をご確認ください。